

現に救助を必要とする人はみんな助ける、それが基本だ

災害救助法の適用めぐり、市長などと論戦



私は21日、一般質問に立ち、災害救助法の原則的、弾力的な運用、合併20周年を迎えての課題などで市長に見解を求めました。以下は救助法適用問題です。

【橋爪】今年雪の降り方が異常だった。たくさん降ったところとそうでないところの差も極端だ。2月は本当に困った人がたくさん出た。そういうなかでの災害救助法問題です。法適用の基本についてはどういうふうにとらえているか。

【市長】豪雪に伴う災害救助法の適用については、新潟県が独自の運用基準に基

づき、県内各市町村の観測所における各30年間の平均積雪深を1つを目安としつつ、今後の気象予報や県内市町村の適用状況を総合的に勘案し、判断している。本基準は、県が昭和50年に制定したものだ。平成の合併に伴い、特別豪雪地帯に該当する地域とそれ以外の地域が混在する自治体が生じていたことを踏まえ、平成18年1月に、合併前の旧市町村ごとに観測所は再指定されたところだ。

【橋爪】内閣府の災害救助法事務取扱要領には、救助の基本的なことがすべて書いてある。雪の被害に遭って助けてという声が上がっているところはすべて救助するというのが基本ではないか。

【担当部長】私もは要援護世帯除雪費助成制度の対象と災害救助法の対象は同じだと思っている。労力、資力のない方が対象だ。

【橋爪】内閣府の事務取扱要領では経済的要件は課さないとなっている。確かに、要援護世帯助成費助成制度の対象になっている人は当然、対象になる。しかし、その他の人たちも対象になる場合が

ある。そういう扱いになっているのが事務取扱要領ではないか。あなた方の認識は間違っていると思う。そこは内閣府の政策統括官と一度話をしてみしてほしい。

次の問題に移る。災害救助法が適用されてから大島、安塚などの現地調査をした。その帰り道、浦川原の上猪子田に寄ったが、適用されているところと同じくらい積雪があったが、法適用されていない。そこに矛盾を感じた。2月に日本共産党新潟県委員会が内閣府と交渉した際、適用は旧町村単位にこだわることなく、全市適用でもいいという見解だった。これをやれば、災害救助法の適用の歴史を変える政策転換になる。救助法には平等の大原則がある。原因が同じで、同じように苦しんでいる人にはすべて手を差し伸べる、これは救助の大原則だ。市長、県とも話して、内閣府とも連絡を取りながらぜひ実現してもらえないか。

【市長】霞が関の中でも力関係がある。その中でできるかどうかかわからないが、やれることについてはやりたいと考えている。



座る前に巣の手直しをするコウノトリのメス。毎日のように、巣の手入れをしながらオスと共同で卵を温めています。注目のコウノトリのペア、今週後半にはヒナの誕生を迎えます。写真は24日、吉川区にて撮影しました。

私の13冊目のエッセイ集、『とちの風』（税込1590円）が27日から発売となりました。ご希望の方は私までご連絡を！

苗代までの道路は4分ほどの雪の壁があり、みんなびっくりに。苗代用地は3分50秒ほどの雪が残っていて、案内役の内山愛治さんから、156豪雪以来だ。昨年の38万円を大きく上回る除排雪経費がかかり大変だ。市のこれまでの支援水準を上回る支援をお願いしたいと訴えられました。ぜひ実現させたいです。



苗代等の除排雪の支援強化を



【サンシュユ】（再掲）ミズキ科の落葉小高木。漢字で、「山茱萸」と書きます。私の地元事務所の近くの畑で毎年、見事な花を咲かせています。花期は3月から4月。若葉に先立ち黄色の小花をたくさんつけます。10月の中旬から11月に赤い実をならせませす。花言葉は、「持続」「耐久」など。

はしづめ法一の活動レポート

No.2197 2025.3.30
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3627
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八四四回

突然の震え

市議会の総務常任委員会審査の初日、午前一時頃に一回休憩し、審査を再開した直後のことです。突然、体に震えが来ました。まさにガタガタという感じです。そして涙も流れ始めました。

このままだと声も出てしまいそうだと考えた私は、すぐにハンカチを出し、顔も口も覆いました。周りの人に気づかれなかつたからです。でも体の震えだけではどうにもなりません。ようやく落ち着いていたのは二分くらい経ってからだったと思います。

突然の震えが来た原因はわかっていません。休憩時間中に教育委員会の文化行政課幹部と電話で話した時に、前日、大潟区で見つかったコウノトリの足一本と足環一個に加え、もう一個の足環も見つかったという最新情報が入ったからです。

それを聞いただけで、力が抜けました。足環二個が見つかったとなると、「これじゃ、もう生きていけない。絶望的だ」と思ったからです。そのときのやるせない気分をひきずったまま、委員会室に入った私は、議事事務局の人たちに向かって、「もう、ヤル気がなくなりました」という言葉を発して、自分の席に着きました。その言葉が聞こえたのか、議長が、冗談交じりに「それならいいけど」と笑っていました。

委員会再開前、自分の席に着いた時、私は昨年七月に巣立った四羽のヒナたちの姿が目に見えかけました。巣立ちの前、入念にジャンプを繰り返していたこと、田んぼなどに降り立ってからは、親鳥からエサの獲り方を教わり、四羽が協力していたことなどです。その一羽が事故に遭ったのです。

そして、親鳥のことも思いました。昨年四羽のヒナを育てたペアは、今年も同じ巣の上で新たな卵を温め始めていました。自分の子どもがいま、どういふ緊急事態になっているかをまったく知らず、のんびり

と卵を温めている。それを思っただけでも不憫（ふびん）でした。そこからです、身体がガタガタブルブル始めたのは……。

幸い、震えが収まって、委員会ではしゃべり始めてからは質問に集中することができました。審査した二日間とも普通に質問でき、ひきずることはありませんでした。

いま、振り返ってみると、あのような震えが私にもやってくるとは思ってもみませんでした。ただ、母が自分のキョウダイの死を知った時に体を震わせた姿を二度見えています。一度目は千葉の叔父の時です。この時のことは、母が小刻みに体を震わせたこと以外は覚えていませんが、二〇一六年十二月、板山の伯母が亡くなったことを伝えた時のことは鮮明に記憶しています。

デイサービスから帰って来た母に、「ぼちゃ、板山のぼちゃ、亡くなったよ」と伝えると、私の言葉を聞いた母は、「あら、そいが。はい、百だもんな」と言っていて、まったく動揺するところはありませんでした。でも数秒後、「自動車で来たがかえ、と言っていたがに……」と言って顔を両手でおおい、「エーン、エン」と泣き始めたのです。これにはびびりました。

伯母の亡くなる数年前には、母が長年連れ添った父が病院で亡くなっています。その時、母は長女と共に病院に駆け付けたのですが、涙ひとつ流しませんでした。その母が、自分の姉が亡くなったことを知って、ひと呼吸してから、体を大きく震わせ、泣いたのです。私も母の子です。母と同じものを引き継いでいるのでしょね。

今回、足環が見つかったコウノトリの個体番号はJ0795、昨年七月一四日に巣立った鳥です。私は議会の休会日に、足環が見つかった場所の周辺を一時半ほど歩き回りました。ひよっとすれば、私を待っているかもしれない、そう思ったのです。でも何一つ見つかりませんでした。

作品展や芸能発表も…柿崎区生涯学習フェスティバル



柿崎地区公民館で開催されていた「生涯学習フェスティバル」へ23日、行ってきました。

生け花、押し花、ちぎり絵などの作品を観た後、芸能発表も少し観てきました。

作品展では押し花やちぎり絵などの美しさにくぎ付けとなりました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月19日(水)	3月26日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.057	0.037
名立分遣所	0.060	0.057
高土分遣所	0.050	0.053

ピアスのチャリティライブ、大盛況

20日に柿崎コミクラで開催された地域コミュニティバンド・ピアスの能登半島被災者支援ライブ、会場の大ホールが観客で満杯になるほどの盛況ぶりでした。

石川さゆりの『能登半島』などの名曲に加え、私も作詞にかかわった『コウノトリさん、ありがとね』

『ランラン凍みわたり』も披露されました。いい作品に仕上げてもらい、感謝でした。(一部地域既報)

